


ひらめkey（算数通信）

— ひらめき+Key 「ひらめくカギは、心の中に」

算数専科 野村 伸

【未来を拓く「学びの質」】—「解く」の先へ。自分で学びをデザインする。—


【変化】振り返りが「進化」しています


 これまでの振り返り


「計算が全部あっていて嬉しかった」


「難しかったけど頑張った」

 今、増えている「進化した振り返り」 

 協働の分析:「今日は〇〇さんと話したことで、図の描き方のコツがわかった」

 家庭学習との連携:「割り算の筆算が不安だから、家ではそこを重点的に復習したい」

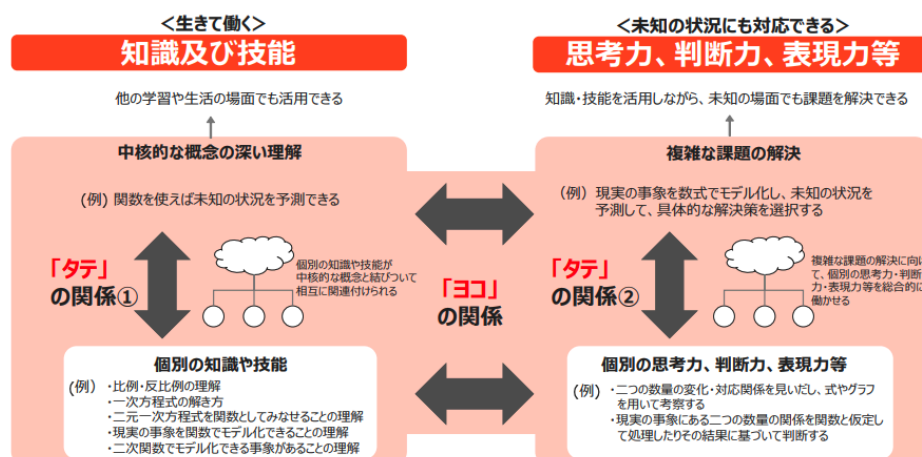
 思考の整理:「答えは出たけど、もっと効率の良い解き方があったかもしれない」

 新たな問い:「この決まりは、小数の時でも使えるのかな？」

ただマルをつけるだけでなく、「自分はどのように学んだか」「次はどうしたいか」を考え始めています。メタ認知能力(自分を客観的にみる)が育ちつつあります。

生きた知識を育むための評価へ

学校での学びは、ただ計算ができるだけでは不十分です。習った知識を、「どう使うか」「どう応用するか」「新しい問題にどう立ち向かうか」という「考える力」と結びつけることで、「生きた知識」へと変わっていくからです。応用問題やプロジェ



クト学習は、まさにこの「考える力」を育てるための大切な仕掛けです。[文科省の論点整理](#)においても、「思考力・判断力・表現力」をより高めることが重要だといっています。そのため、2学期からは単元テストだけでは見えない能力も評価材料として取り入れたいと思います。

【展望】教科書を飛び出し、正解のない問いへ

基礎基本を早く正確に終わらせる力がついた今、授業は「質を高めるフェーズ」へ移行します。今まで学んだ単元での学び、他教科での学びなどのそれぞれの知識を繋げ、「自分の生活経験」や「身近な問題」を算数で解決できるよう促していきます。

また、2学期後半は学びを修める時期ですので、学びを深めるだけでなく、復習も含めて取り組んで参ります。

ご家庭におかれましても、励ましの声かけのご協力をよろしくお願いします。